



美しい青と黄の編隊



©IKUO NAKAMURA

熱帯魚というのは1匹で泳いでいても、姿や色彩にほれほれするものだが、それがひとかたまりとなって現われると、カメラのファインダーから視線を外し、この目でじかに見とどけたいという欲求にかられてしまう。とくにウメイロモドキの群れは壮観だ。

青い海の深みから、湧き上がるように浮上してきたかと思うと、僕たちの周りをグルグル旋回し、やがてあっという間に視界から消えていく。

ときには向こうが見えないほどの大群に出会うこともあるが、そのようなときは、目の前すべてが青と黄色の色彩におおわれてしまう。時折、船上から水面がザワザワと波立つ様子を確認することがあるが、それはウメイロモドキたちが、水面下でプランクトンを食べているからだ。ほとんど泳ぎを止めて、のんびり餌を食べている姿は、いかにも幸せそうだ。

だが、ウメイロモドキを狙う大型魚も、サンゴ礁域にはたくさん生息している。体長1mを越すロウニンアジなどは、ゆっくりとウメイロモドキの群れの下や横に回りこみ、病気で弱っていたり、群れから外れそうな相手を見つけると一気に襲いかかる。

その瞬間、ウメイロモドキたちはパニックとなり、目にも止まらぬ早さで逃げまどう。しかしそれも束の間、2~3秒もすると一団となって、何事もなかったかのように平然と、美しい編隊を見せてくれるのだ。

Profile

中村征夫(なかむら・いくお)

1945年 秋田県生まれ。20歳のとき自己流で潜水を始め、撮影プロダクション水中造形センターを経て77年よりフリーの水中写真家に。著書・作品集は『全・東京湾』『海中顔面博覧会』『白保』(情報センター出版局)、『ガラパゴス』(集英社)、『カムイの海』(朝日新聞社)、『海のなかへ』『熱帯夜』(小学館)、『沖縄珊瑚海道』(アスペクト)など多数。第13回木村伊兵衛写真賞、第9回文化庁芸術作品賞、第12回東川写真特別賞、第28回講談社出版文化賞写真賞、ほか受賞多数。夏には、漢詩と水中写真を合わせた「水中の賢者たち」、エプソン大型プリンタで出力した作品「海の季節」の写真展を仙台の藤崎デパート(7/25~8/6)で、またモノクローム写真展「熱帯夜」を東京・千代田区のJCIフォトサロン(7/29~8/31)で行う。



編集後記

毎年、夏になると節電を呼びかけられますが、今年は原子力発電所が点検中のため、関東では深刻な電力不足が心配されています。「関東大停電の危機」なんて、冗談みたいな言葉も使われています。節電方法はいろいろありますが、エアコンの設定温度を高くして、暑さをガマンするのが手取り早いでしょうか。それよりいっそ、省エネタイプに買い換えるか…。部屋は涼しくなりますが、フトコロも涼しくなってしまいます。暑がりの人には辛いシーズンです。せめてFINDの表紙が一瓶の清涼剤となりますように。(H.K)

FIND 2003年7月発行 Vol.21 No.4 通巻103号

発行 富士通株式会社 電子デバイス営業本部

企画編集 FIND編集委員会

お問い合わせ先 富士通株式会社 電子デバイス営業本部

FIND編集事務局

〒163-0721

東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル

TEL 03-5322-3326 FAX 03-5322-3395

印刷

株式会社シークコーポレーション